

# 【掲載記事】180411高齢者住宅新聞 「生涯活躍のまち」には何が必要か(社長連載33)

去る3月31日、当社運営の「ゆいまゝるシリィズ」10ヵ所目となる分散型サ高住「ゆいまゝる大曽根」(名古屋市の1階に、閉鎖したスーパ



第33回 「生涯活躍のまち」には何が必要か

跡地(約300坪)を活用した住民交流スペース「ソーネおおぞね」がオープンしました。

ソナーネおおぞねの企画・運営を担うのはNPO法人わっぱの会です。1971年に名古屋市で設立された同団体は、障がいを持つ人もそうでない人もみな「共に働き、共に生活する場をつくり、共に生きる社会を実現しよう」を理念に、さまざまな活動に取り組んでいます。具体的には、家庭から出るさまざまな資源ごみを有料で買い取る「しげん買い取りセンター」、カフェレストラン、困りごとに対応

介護ビジネスの未来を創る

## 週刊 高齢者住宅新聞

Elderly Press Newspaper

2018年(平成30年)  
4月11日  
第489号 (毎週水曜日発行)

(株) 高齢者住宅新聞社  
〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15  
☎03-3543-6852(編集部)  
発行人 西岡一紀  
年間購読料 22,680円(送料込・税込)

ホームページ  
<http://koureisha-jutaku.com>

## 「お互い様」が支える共生社会

する地域サービス相談コーナー、イベントスペースなど、複数の機能を有し、そのいくつかを障がい者就労継続支援A型事業として運営しています。

一般的には障がい者就労継続支援事業は、製造分野が多いのですが、ここでは、たとえばカフェレストランでの食事の盛り付けや給仕など、サービスが中心です。障がい者の方にとっては仕事の選択肢が増えることになり、さらに地域の方やゆいまゝる大曽根の入居者など、人と直接触れ合う機会が生まれることで、やる気はより大きくなるでしょう。

交流スペースは、地域者も例外ではありません

住民向けのものなので、もちろん、ゆいまゝる大曽根の入居者も利用します。ただ、入居者もサービスを受けるばかりではありません。かつてカフェを経営していたという女性の入居者がいらして、ソーネおおぞねで働きたいとのこと。この4月から厨房で仕事を始めるそうです。

元氣なうちは働きたいと思っっている高齢者は、少なくありません。収入を得ることはもちろんですが、誰かの役に立ちたいという気持ちがあるのではないのでしょうか。どんな人も誰かに頼り、誰かに頼られながら生きています。障がい者や高齢者も例外ではありません

(株)コミュニティネット 高橋 英與 (たかはし・ひでよ)



1948年岩手県花巻市生まれ。コーポラティブハウスや有料老人ホームづくりを経て、2006年コミュニティネット代表取締役就任。自立型高齢者住宅を中心とした団地・過疎地再生事業に携わり、現在は地方創生の最前線に立つ。主な著書に「コミュニティ革命「地域プロデューサー」が日本を変える」(彩流社)。